

## 英語点字資料編

### 1. 本書の構成

英語の点字は、基本的には普通の文字と同じようにアルファベットと句読符から成っている。さらに、点字の読み書きを速くするために、点字独特の縮約を加えている。そこで、中学部の第1学年ではアルファベットと句読符を学び、第2学年から第3学年が終了するまでの間に、7つの段階に分けて点字の縮約を学ぶことになっている。高等部の教科書及びアメリカやイギリスの書籍では、これらの点字縮約がすべて使われているので、中学部の間に、出てきた順序に従って十分に学んでおくことが必要である。この資料編の第1巻には、英語の点字に関する事柄がほとんどすべてまとめられている。

2. 「点字の配列表」は、英語点字を学ぶ上での基本となるものである。特に、点字縮約の成り立ちの基本となっている。
3. の「アルファベットと発音」から5. の「発音記号の書き方」までは、点字縮約を含まない英語の書き方について、項目ごとにそれぞれ解説してある。
6. の「音節の区切り方」と7. の「主な接頭辞と接尾辞」は、第3学年で学ぶ点字縮約の第6段階と第7段階の規則を理解し、点字縮約を正しく書き表すために参考になるものである。
8. から14. までは、点字縮約の第1段階から第7段階までの解説である。
15. と16. は、英語の点字縮約の一覧表である。そのうち15. の「段階別一覧表」は、教科書に出てくる順にまとめてある。16. の「アルファベット順一覧表」は、すべての点字縮約を辞書と同じようにアルファベットの順に並べてあるので、自分が書きたい単語を点字縮約ではどう書けばよいかを調べたいときに活用出来る。
17. の「字形別一覧表」は、すべての点字縮約を字の形の順に並べてあるので、読み方が分からない点字縮約に出会ったとき、その綴り字を調べるために活用出来る。なお、字の形の配列順序は、2. の「点字の配列表」の順に並べられている。資料編は、高等部でも十分に活用できる。

## 2. 点字の配列表

6点点字は、1825年にフランス人ルイ・ブライユ（Louis Braille）によって考案された盲人用触読文字である。英語では考案者にちなんで、点字のことをブレイル（Braille）と言っている。6点点字は一マス6点であるから、64とおりの組合せとなる。ルイ・ブライユはマスあけの記号を除いた63を次の7行に配列している。

第1行	⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
第2行	⠪	⠬	⠭	⠮	⠰	⠱	⠲	⠳	⠴	⠵
第3行	⠶	⠷	⠸	⠹	⠺	⠻	⠼	⠽	⠾	⠿
第4行	⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
第5行	⠪	⠬	⠭	⠮	⠰	⠱	⠲	⠳	⠴	⠵
第6行	⠶	⠷	⠸	⠹	⠺	⠻	⠼	⠽	⠾	⠿
第7行	⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩

1行目は、上の四つの点の組合せの15の中から、下がり記号と4・5の点だけの組合せを除いたものである。2, 3, 4行目は、1行目の記号にそれぞれ3の点、3・6の点又は6の点を加えたものである。5行目は、1行目と同じ形をそのまま下に下げたものである。このように1・4の点を用いない記号を下がり記号という。残りの13のうち、3の点を含むものを6行目とし、4・5・6の点の組合せを7行目に配列した。ルイ・ブライユは、フランス語のアルファベットに1, 2行目と3行目の半分までを当てた。しかし、ここにはWがない。もともとWは、Uがダブった「ダブルU」か、Vがダブった「ダブルV」などとして扱われていたので、記号を当てなかった。後に、英国人の忠告を入れてWを加えたが、それが英語やドイツ語などのアルファベットにも使われるようになった。5, 6行目の下がり記号は、句読符として用いられ、7行目は、点字独特の記号として用いられている。数字は、1行目に数符を前置して表している。また、楽譜では、1行目から4行目までの最初の3個を除いたものを、それぞれの長さの音符に当てている。また、7行目の記号を、高さを表す音列記号として用いている。英語の点字縮約もこの表をもとに作られている。

アルファベットの中から a, i, oを除いたものと、その他の記号から6行目の□⠠□, □⠡□及び7行目の記号を除いたものは、すべて1マスの縮約として用いられている。また、7行目の□⠠□以外の6つも2マスの縮約の前置点となっている。さらに、5行目の記号と□⠡□は、句読符として用いられている。中には下がり記号の縮約としても用いられるものもある。なお、日本点字においても、考案者の石川倉次は、この表の1行目から5の点を含むものを除いてア行とし、それに3・5・6の点を組み合わせたものを加えて、その他の各行を作っている。以上述べたことから、この配列表は点字記号の基礎であることが確認できる。

### 3. アルファベットと発音

アルファベットは、東地中海地方で考案され、ギリシア・ローマ時代にヨーロッパ全域に広まった。今では世界各地で用いられ、日本語のローマ字や中国語の音声表記（ピンイン）などに用いられている。

英語では、普通、大文字と小文字が、活字体と筆記体の二とおりに表され、これらの4種類は、それぞれ26文字から成る。点字には、活字体と筆記体の区別はなく、大文字と小文字も次のように小文字に大文字符を前置するだけで区別している。

⠁	⠃	⠉	⠇	⠑	⠋	⠒	⠎	⠢	⠊
a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
⠅	⠇	⠍	⠏	⠕	⠏	⠒	⠎	⠢	⠞
k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠				
u	v	w	x	y	z				

⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠
K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
⠠	⠠	⠠	⠠	⠠	⠠				
U	V	W	X	Y	Z				

これらを次の5グループに分けて、アルファベットと発音の関係を学ぶ。

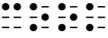
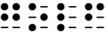
#### (1) 長くのばすと「イー」になるもの

⠃	⠉	⠇	⠏	⠏	⠞	⠞	⠞
b	c	d	g	p	t	v	z

これらの読みから後ろの「イー」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

(例)	⠃⠠⠞⠞⠞	⠃⠠⠇⠞⠞	⠉⠠⠞⠞⠞⠞⠞	⠉⠠⠞⠞⠞⠞⠞⠞⠞	⠉⠠⠞⠞⠞⠞⠞
	bat	bed	city	center	desk
	⠉⠠⠞⠞⠞⠞⠞	⠇⠠⠞⠞⠞⠞⠞⠞⠞	⠇⠠⠞⠞⠞⠞⠞	⠏⠠⠞⠞⠞⠞	⠞⠠⠞⠞⠞⠞⠞
	doll	Giants	page	pen	taxi
	⠞⠠⠞⠞⠞⠞	⠞⠠⠞⠞⠞⠞⠞⠞	⠞⠠⠞⠞⠞⠞⠞	⠞⠠⠞⠞⠞⠞	
	ten	visit	zero	zoo	

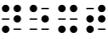
ただし、cには「ク」から「ウ」を、gには「グ」から「ウ」をとった発音がある。

(例)      
 car cook gas golf

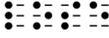
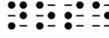
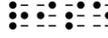
(2) 前に「エ」という音がつくもの

       
 f l m n s x

これらの読みから前の「エ」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

(例)        
 fan fish like lip map mix  
      
 net next star sun box

ただし、s は、濁る場合もある。

(例)      
 lose news nose rise

(3) 後ろに「エイ」という音のつくもの

   
 j k

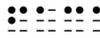
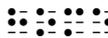
これらの読みから後ろの「エイ」という音をとると、これらの文字の表す発音になる。

(例)      
 jam joke key king

(4) 英語の母音を表すもの

      
 a e i o u

これらが、アルファベットの読みと同じように発音される時、その後ろに発音されない e が子音をはさんでつくことが多い。

(例)      
 cake face scene fine  
      
 life home rose cute use

ただし、発音しない e がついても読みが異なる場合と、e がつかなくても、これらと同じ発音を表す場合がある。

(例)     

come	done	rule	April
kind	go	human	music

また、これらの文字は、単独又は二つ以上の組合せでいろいろな発音を表す。

(例)

bat	egg	ink	pot	put
main	August	sea	beauty	
bee	field	boat	coin	book
pool	young	mountain	fruit	

(5) その他の文字

h	q	r	w	y

これらのうち、h は日本語のハ行に、r はラ行に、w はワ行に、y はヤ行に似た発音を表すこともある。

(例)

hand	hint	hot	red	rice	run
wax	wet	wood	yard	yes	you

これらの文字は、前のグループの文字と組み合わせて、長母音や二重母音又は三重母音を表す場合もある。

(例)

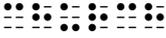
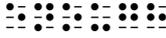
ah	oh	carpenter	hair	fire
born	turn	saw	new	town
day	eye	boy	player	

y には i と同じ使い方があり、q は u と組み合わせて用いられる。

(例)

bicycle	city	my	type
queen	quickly	quite	

h は他の文字に添えて別の子音をも表すことがある。

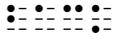
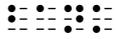
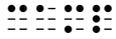
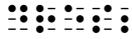
(例)  church       headache       ghost       enough

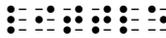
 telephone       she       ship       the

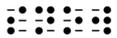
 thanks       white

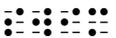
(6) 子音と子音の結び付き

日本語と違って、英語では次のような子音と子音の結び付きがみられる。

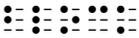
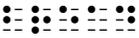
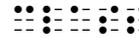
(例)  back       bank       camp       dress

 little       hand       sky       slip       small

 snow       song       spring       stamp

 strong       swim       text       train

中でも、他の文字と l か r の組合せには、特に発音上注意を要する。

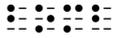
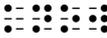
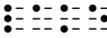
(例)  block       bread       class       cry       close

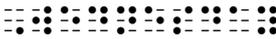
 cross       fly       fresh       glass

 grass       play       present

(7) 発音されない綴り字

英語には、歴史的変化などで発音されない綴り字がある。

(例)  bomb       eight       know       lake

 often       Wednesday       write

#### 4. 句読符と点字独特の記号

(1) 句読符 

(Punctuation Marks)

英語の単語の綴りは続けて書き, 単語と単語の間は一マスあけて書く。さらに, それ以上のまとまりが必要な場合, 句読符を用いる。点字の句読符の使用法は, 普通の文字の場合と同じである。そこでコンピュータのフルキーボードの場合も, その順序に対応する記号のキーを打つだけでよい。

(a) コンマ  □□  (,)

(comma)

語句や節の切れ目, 数字の区切り等を明確にするために用いる。

(例)



I can swim, too.

(私も泳げます。)



2,000,000

(b) セミコロン  □□  (;)

(semicolon)

二つの文が重なってできた文の前の部分の終わりなどに用いる。

(例)



Mary drives a red car; Ken drives



a white one.

(メリーは赤い車を運転し, ケンは白い車を運転する。)

(c) コロン  □□  (:)

(colon)

文中で, 前に述べた事柄に続けて, 詳しい内容を述べる場合に, 文を区切るために用いる。なお, 固有名詞などの特別な場合を除けば, コンマやセミコロンの後ろは, 一マスあけて小文字で書き始めるが, コロンの後ろは, 一マスあけた後, 文の初めと同じく再び大文字で書き始める。すなわち, シナリオなどの場合は, 配役名などの後ろにコロン



(g) アポストロフィー  □□  ( ' )  
(apostrophe)

綴りの一部の省略を表すために用いる。

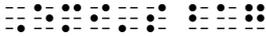
(例)

 — 

do not — don't

「～のもの」という意味を表すために用いる。

(例)



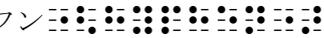
(絵美のかばん)

Emi's bag

文字・数字・略称の複数形は 's を付けて表すが、しばしばアポストロフィーは省略される。このような場合、点字でも省略される。

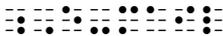
(例)

1970s  1970's 

(h) ハイフン  □□  (-)  
(hyphen)

複合語などのつなぎに用いる。他の記号類と同様に、大文字単語符の効力を無くしてしまうため、ハイフンの後に大文字で始まる語が続く場合は大文字単語符をハイフンの後につける必要がある。(詳しくは大文字符のところで説明する)

(例)



E-mail

(Eメール)

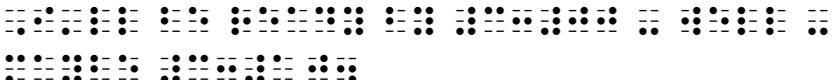


DVD-ROM

(ディーブイディーロム)

ダッシュの代わりにハイフンが用いられる場合は、前後を1マス空けて使う。

(例)



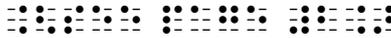
I'll be ready by 3:00 - well - maybe 3:10.



- (k) 角括弧   [ ]  
 bracket

語句の注記などに用いる。

(例)



[see page 2]

(2 ページを見なさい。)

- (l) ダブルコーテーションマーク    


double quotation mark  “ ”

アメリカでは会話などの引用に用いる。イギリスでは引用中の引用に用いられる。ただ、開き記号が his の縮約語、閉じ記号が was の縮約語に読まれる恐れがある場合は、 の形を用いる。また、ダブルコーテーションマークの開き記号の前に、グレード1記号符が置かれると、クエスチョンマークと読まれる恐れがあるため、開き記号のあとにグレード1記号符を置く。

(例)



He said, "I am a cat."

(「我輩は猫である」と彼は言った。)





She said, "Please read "Harry Potter.""

(彼女は、「『ハリー・ポッター』をお読みなさい」と言った。)



("To be or not ...")

(「そうあるべきなのか、そうではないのか...」)



(「W-a-l-k」と綴りなさい。)

- (m) シングルコーテーションマーク    
  
 single quotation mark  

イギリスでは、会話など引用に用いる。アメリカでは引用中の引用に用

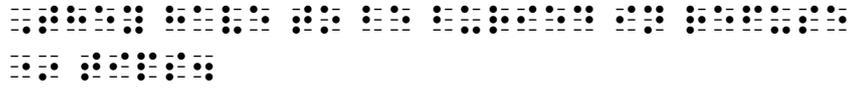
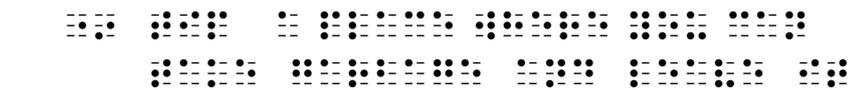


- (p) アスタリスク   \*

asterisk

注を表すのに用いる。

(例)

They have to be buried in refuse \*tips.

\*tip a place where you can take garbage and leave it

- (q) アンパサンド   &

ampersand

英語では and に相当する記号。複数の事柄を同格で並べるのに用いる。

(例)



B&B (bed and breakfast の略, 朝食付きの民宿)

この場合、B は記号に接しているので But&But と読まれることは無く  
グレード 1 記号符は用いない。

- (r) アットマーク   @

commercial at

電子メールのアドレスでユーザー名とドメイン名を区切るのに用いる。

(例)



[info@haraweb.jp](mailto:info@haraweb.jp)

- (s) 小数点   .

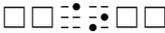
decimal sign

ピリオドと同じ形を小数点にも電子メールのドットにも用いる。

(例)

 3.14

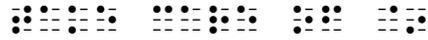
数符の効力は、ピリオドでは失われない。

(t) 波形   ~

swung dash

任意の語や字の代わりに用いる。

(例)



take care of ~

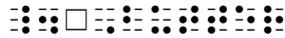
(u) ビュレット   ..

bullet

箇条書きにする際に、各項目や見出しの前に目印としてつける。











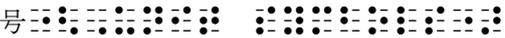
INGREDIENTS : (原料)

・Wheat flour (小麦粉)

・Butter (バター)

・Eggs (卵)

・Sugar (砂糖)

(2) 単位記号 

Unit symbols

(a) ポンド記号 

£ pound sign

(例)

 £ 20

(b) 度記号 

° degree sign

(例)

 20°

 20°C

 70°F

(c) 円記号 

¥ yen sign

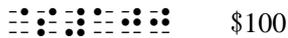
(例)

 ¥360

(d) ドル記号 

\$ dollar sign

(例)

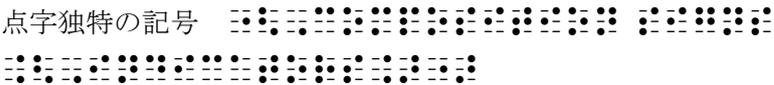
 \$100

(e) パーセント記号 

% percent sign

(例)

 90%

(3) 点字独特の記号 

Composition signs (Indicators)

点字は、普通の文字のように文字の形や大きさを変えられないので、これらを表す場合、特別な記号を用いる。

(a) 大文字符 

 capital letter indicator

固有名詞や文の初めなど、頭文字一文字だけが  
大文字の場合に、その文字の前に用いる。

(例)



George Washington

(b) 大文字単語符 

 capital word indicator

単語全部が大文字で書かれている場合に、その単語の前に用いる。

(例)



STOP! (止まれ!)

大文字単語符は、マス空け・ハイフン・ダッシュ・アポストロフィ

ー・スラッシュ・数字などで、その効力は終わる。

BOB'S CAFE 

(c) 大文字パッセージ符 

capital passage indicator

3語以上、大文字の単語が続く時は、大文字パッセージ符で始め、大文字終止符で閉じる。

(d) 大文字終止符 

capital terminator



(例)



I AM A CAT.



CDs

(e) イタリック記号符 

italic symbol indicator

次の文字、もしくは記号がイタリック体である時に用いる。最初の文字だけがイタリック体であれば、縮約であっても用いることができる。

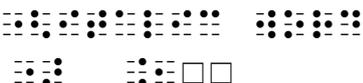
(例)



*bright*



*have*

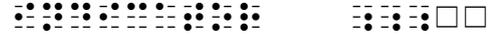
(f) イタリック単語符 

italic word indicator

その後続く、単語や文字・記号列がイタリック体である時に用いる。



T-H-I-E-F!

(k) グレード1 パッセージ符  grade 1 passage indicator  


(l) グレード1 終止符  grade 1 terminator  


(k)と(l)の間の語句に、縮約が使われていない事を示す。

(例)

  
s-t-o-p                      r-i-g-h-t                      n-o-w

(4) これらの記号の提示順  
句読符と点字独特の記号が二つ以上重なった場合には、次の順に書き表す  
ことになっている。

- (a) 丸括弧か角括弧の開き
- (b) コーテーションマークの開き
- (c) イタリック符
- (d) 文字符
- (e) アポストロフ
- (f) 大文字符
- (g) アクセント符
- (h) 閉じの記号

(例)

  
("Z is the last.")

(Zは最後である。)

(5) 英語と日本語の記号の相違点  
仮名文字の数は、アルファベットの二倍もあるので、句読符などを  
共通にすることは難しい。主な相違点は、次のとおりである。

- (a) コンマやセミコロンと読点や中点  
コンマ (2の点) やセミコロン (2・3の点) は、促音符や古文の  
「ゐ」と重なるので、中点 (5の点) や読点 (5・6の点) は

半マス後ろにずらしてある。また、中点や読点の用法は、コンマ・セミコロンのように厳密ではなく、点字は特にあいまいだった。

- (b) 英語の疑問符（2・3・6の点）と日本語の疑問符（2・6の点）  
英語の疑問符は、enの略字□⠠□と重なるため、他の国とは別な記号□⠠□に変えている。

- (c) コーテーションマークとかぎ類

⠠□□⠠ — ⠠⠠□□⠠⠠ 又は ⠠□□⠠  
“ ” 「 」 「 」

⠠⠠□□⠠⠠ — ⠠⠠□□⠠⠠  
‘ ’ 『 』

などのように、英語と日本語の記号は異なっているが、撥音符の□⠠□（ん）と重なるのでやむを得ない。

- (d) ダッシュと棒線

□□⠠⠠ — □□ ⠠⠠ □□などと高さやマスあけが異なるが、かぎや長音符との混同を避けるためやむを得ない相違点である。

- (f) 文字符と外字符及び外国語引用符

□⠠□は、英語では点字縮約ではないアルファベットそのものであることを示すが、日本語では外国の文字であることを示し、意味が異なる。また、⠠□□⠠は、英語ではコーテーションマークだが、日本語では外国の語句や文字を表す記号である点が異なっている。

☆ 辞書や参考書又は試験問題などで、これらが混ざって出てきたとき、その使い分けを注意する必要がある。

## 5. 発音記号の書き方

単語の発音を点字で表記する記号として、日本では Daniel Jones 式の発音表記を基に、1933年にイギリスで決められたものが使われている。現在、発音表記で一般的に使われている国際音声記号は、Daniel Jones 式と比較すると、記号の数だけでなく補助記号も多く使われている。そのため、教科書及びこの資料編では、従来からの表記を採用している。なお、国際音声記号の点字表記については北米点字委員会 (BANA) のホームページを参照して頂きたい。なお、アメリカでは発音されるが、イギリスでは発音されない場合などに、発音記号が斜体字で表記される場合があるが、この教科書では  $\text{ː}$  を前につけて、表している。

### (1) 発音記号に伴う符号

(a) 発音記号符  $\text{ː}$  □ □  $\text{ː}$

[ ] 発音記号の前後を囲む。

(b) 第一ストレス符 (primary stress sign)

ˈ  $\text{ː}$

最も強いアクセントの母音の前に置く。

(c) 第二ストレス符 (secondary stress sign)

ˌ  $\text{ː}$

二番目のアクセントの母音の前に置く。

### (2) 母音 (Vowel)

$\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$  —  $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$

[i:] see [si:]

$\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$  —  $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$

[i] in [in]

$\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$  —  $\text{ː}$   $\text{ː}$

[e] bread [bred]

$\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$  —  $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$

[æ] cat [kæt]

$\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$  —  $\text{ː}$   $\text{ː}$

[ɑ:] father [fɑ:ðər]

$\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$  —  $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$

[ɑ] drop [drap] (米)

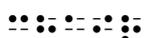
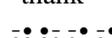
$\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$  —  $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$   $\text{ː}$

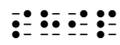
[ɒ] drop [drɒp] (英) .

	—		
[ɔ:]		ball	[bɔ:l]
	—		
[u]		foot	[fʊt]
	—		
[u:]		moon	[mu:n]
	—		
[ʌ]		cup	[kʌp]
	—		
[ə:]		bird	[bɜ:rd]
	—		
[ə]		America	[ə'mɛrɪkə]
	—		
[eɪ]		face	[feɪs]
	—		
[ou]		go	[gou]
	—		
[aɪ]		time	[taɪm]
	—		
[au]		house	[haus]
	—		
[ɔɪ]		boy	[bɔɪ]
	—		
[ɪə]		here	[hɪər]
	—		
[eə]		hair	[heər]
	—		
[ɔ:]		door	[dɔ:r]
	—		
[uə]		poor	[puər]

(3) 子音 (Consonant)

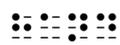
	—		
[p]		pen	[pen]
	—		
[b]		box	[baks]

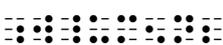
	—		
[t]		tree	[tri:]
	—		
[d]		desk	[desk]
	—		
[k]		clock	[klak]
	—		
[g]		good	[gud]
	—		
[tʃ]		chair	[tʃeər]
	—		
[dʒ]		jump	[dʒʌmp]
	—		
[ts]		let's	[lets]
	—		
[dz]		birds	[bɜːrdz]
	—		
[m]		me	[mi:]
	—		
[n]		net	[net]
	—		
[ŋ]		sing	[siŋ]
	—		
[l]		lily	[lili]
	—		
[f]		four	[fɔːr]
	—		
[v]		of	[əv]
	—		
[θ]		thank	[θæŋk]
	—		
[ð]		this	[ðis]
	—		
[s]		sea	[si:]
	—		
[z]		is	[iz]

 —    
 [ʃ] ship [ʃɪp]

 —    
 [ʒ] usual [ˈjuːʒuəl]

 —    
 [r] red [red]

 —    
 [h] hand [hænd]

 —    
 [w] woman [ˈwʊmən]

 —    
 [j] yes [jes]

 —    
 [hw] white [hwaɪt]

## 6. 音節の区切り方

英語の単語の綴り字は、音節ごとに一つのまとまりがあつて、接頭辞や接尾辞又は語根などの意味の単位と関係が深い。また、音節の区切り方には、ある程度規則性があるから、これを覚えれば辞書を引く手間が少しは省けるようになる。さらに、英文を書いたり点字の行移しの場合、行末のつなぎ符としてのハイフンを用いて、単語の途中で行を移すことができる区切り目を知ったり、点字縮約の正しい使い方を知るためにも音節の区切り方を学ぶことは重要である。そこで、音節の区切り方の規則の主なものを次に示すこととする。

※ 用例中のハイフン□::□は、音節の区切り目を示している。

### (1) 一音節の単語

一つの音節から成る単語は、切り離してはならない。すなわち、単語の綴りが、どんなに長い場合でも、また、母音字 (a, e, i, o, u のこと) が二つ以上ある場合でも、ひと続きに発音する母音 (長母音や二重母音などを含む) が一つしかない単語は、一音節単語であるから途中で切ってはならない。

(例)    ::::    ::::    ::::    ::::  
         boy        cat        feet        foot  
         ::::    ::::    ::::  
         leaves        likes        through

### (2) 一つの母音を表す複数の母音字

二つ以上の母音字が一緒になって一つの母音として一音節に発音されるときは、これらの母音字の間では区切ってはならない。

(例)    ::::    ::::    ::::  
         beau-ty        de-li-cious        ei-ther  
         ::::    ::::  
         pleas-ure        re-ceive

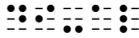
### (3) 一つの子音を表す複数の子音字

二つ以上の子音字 (母音字以外の 2 1 の文字) が一緒になって一つの子音を表したり、あるいはそれらがともに発音されないとき、それらの子音字を切り離してはならない。

(例)    ::::    ::::    ::::  
         fa-ther        graph-ic        high-er  
         ::::    ::::  
         pitch-er        catch-er

(4) 二つの母音を表す二つの母音字

母音字が二つ連続していても各々が別の母音を表すときは、両者の間に音節の切れ目がある。

(例)      
di-al                  du-et                  po-em                  re-al  
   
ra-di-o                  the-a-ter

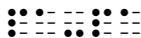
(5) 区切られる複数の子音字

子音字が二つ以上連続している場合、それらが別の音節を表すか、または、その一つが発音されないときは、その間を切り離してよい。

(例)     
bet-ter                  bor-row                  ex-press  
   
mem-ber                  soc-cer

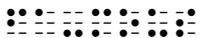
(6) 長母音を表す母音字

一つの母音字が長母音に発音される時、次を区切ることができる。

(例)     
fa-ther                  ma-ma                  pa-pa  
   
se-cret                  stu-dent

(7) 二重母音を表す母音字

一つの母音字が二重母音に発音される時、その母音字と次の字との間に音節の切れ目がある。

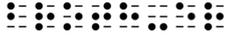
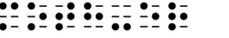
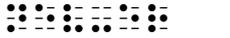
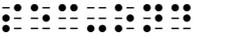
(例)     
fa-mous                  li-on                  na-ture  
    
o-ver                  po-ta-to                  ra-di-o  
   
ta-ble                  li-brar-y

(8) 長母音か二重母音の直後の r

長母音あるいは二重母音のすぐ次の r は、次に子音が来るときは前の音節に、次に母音が来るときは後ろの音節に入れて切り離される。

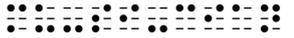
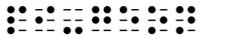
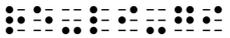
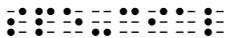
(例)    
im-por-tant                      me-mo-ri-al

- (9) アクセントのある短母音を表す母音字  
母音字が短母音の発音をし、それにアクセントがあるときは、その次の子音字をその音節に含めて綴りを切る。

(例)     
broth-er                      drag-on                      moth-er  
   
nev-er                      sec-ond

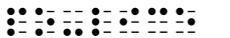
- (10) 規則 (9) の例外

アクセントのある短母音を表す母音字でも、その次の子音字が [ʃ] ,  
[dʒ] の発音をするときは、その子音字は後ろの音節に入れて綴りを切る。

(例)    
mu-si-cian                      na-tion-al  
   
pi-geon                      re-li-gion  
  
spe-cial

- (11) アクセントのない短母音を表す母音字

母音字が短母音の発音をしても、それにアクセントがないときは、その次の子音字は、次の音節に入れて綴りを切る。

(例)     
a-bout                      de-cide                      e-ras-er  
  
po-lice

- (12) 合成語

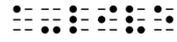
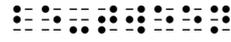
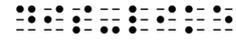
合成語は、もとの単語に切り離してよい。なお、区切り目をダッシュで示す。

(例)    
book-case                      class-mate  
   
o-ver-time                      high-way

 shoe-mak-er     
  who-ev-er

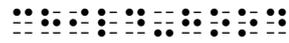
(13) 接頭辞

接頭辞は、語根から切り離してよい。

(例)  a-live     
  be-tween     
  dis-like  
 un-hap-py

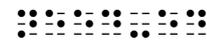
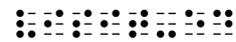
(14) 接尾辞

接尾辞は、語根から切り離してよい。

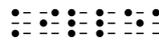
(例)  child-hood     
  care-ful     
  farm-er  
 kind-ness     
  hand-some

(15) 動詞や形容詞の語尾の-ed

(a) [id] と発音するときは、綴りを切ってよい。

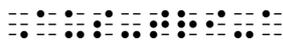
(例)  hand-ed     
  need-ed     
  visit-ed  
 wait-ed     
  want-ed

(b) [d] または [t] と発音するときは、綴りを切ってはならない。

(例)  cried     
  killed     
  laughed  
 passed     
  reached     
  stayed

(16) ia と音節の区切り目

(a) i と a が別々な母音として発音されるときは、その間を区切る。

(例)  A-ra-bi-a     
  Aus-tri-a  
 ma-te-ri-al

(b) i が発音されないときは、i と a は区切ってはならない。



lunch-eon

lun-cheon

(14) 正

(5) 誤

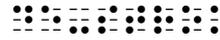
(19) 音節を越えた母音と子音の結合と区切り目の判断

母音と子音の音節を越えた結合による発音に引かれて、綴りの切り方に間違いを生ずることがあるが、接頭辞や接尾辞の知識で間違いを防げる。参考のため、de, dis, en, un の接頭辞による分け綴りを示す。なお、4語ともに、左から見出し語、発音記号、正しい区切り方、誤った区切り方の順で例示する。

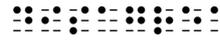
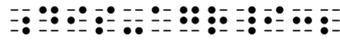
(例)

destroy [di- s t rɔ́i]

(正) de-destroy (誤) des-troy

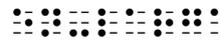
disagree [dis-əgrí:]

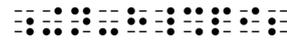
(正) dis-agree (誤) di-sagree

enlarge 

[en-lá:rdʒ]

(正) en-large (誤) e-nlarge

unhappy 

(正) un-hap-py (誤) u-nhap-py

(20) -sor と s-er

(a) s+or は, -sor となる。

(例)  

ad-vi-sor

spon-sor

(b) s+er は, s-er となる。

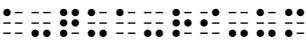
(例)  

ad-vis-er

e-ra-ser

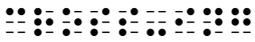
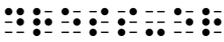
(21) ari と ary の r

ari と ary の r は、前又は後ろのいずれに入れてもよい。

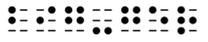
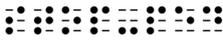
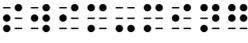
(例)    
a-quar-i-um                      a-quar-i-um  
   
ca-na-ry                              ca-nar-y

(22) 二つの連続した同一子音字

(a) 原語の語尾で同じ子音字が繰り返されていれば切り離さない。

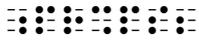
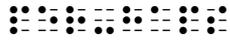
(例)    
cross-ing                              dress-er

(b) 短母音に続く一つの子音字で終わる単語が、変化のため語尾の子音字が繰り返された場合には、その子音字は二つに切り分ける。

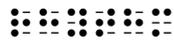
(例)    
big-ger                                  stop-ped  
   
writ-ten                                  swim-ming

(23) 規則の例外

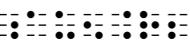
(a) 一音節に発音する語でも、語源からみて綴り字を切ってもよい語がある。また、二音節の語で一音節の発音をもつ場合も同様である。

(例)   —   
layer                                  [léər]                                  lay-er  
  —   
perhaps                                  [præps]                                  per-haps

(b) 二音節に発音する語でも、綴りを切らない語がある。

(例)    
prism                                  rhythm

(c) 三重母音は、発音の点から二重母音に□□を加えたものとも考えることもあるが、この場合でも、綴りは切ってはならない。

(例)      
hour                                  [auər]                                  our                                  [auər]

⠠⠎⠠⠤⠠⠗      ⠠⠎⠠⠤⠠⠗⠠⠎⠠⠤⠠⠗

sour      [sauəɹ]

⠠⠎⠠⠤⠠⠗⠠⠎⠠⠤⠠⠗      ⠠⠎⠠⠤⠠⠗⠠⠎⠠⠤⠠⠗⠠⠎⠠⠤⠠⠗

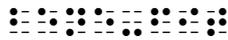
tired      [taiəɹd]

⠠⠎⠠⠤⠠⠗⠠⠎⠠⠤⠠⠗      ⠠⠎⠠⠤⠠⠗⠠⠎⠠⠤⠠⠗⠠⠎⠠⠤⠠⠗

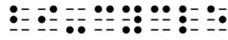
wire      [waiəɹ]



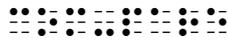
bene- 良い, 恩恵

(例)    
bene-fit bene-factor

bi- 2, 2回, 両方の

(例)    
bi-cycle bi-lingual

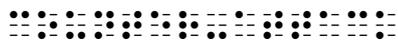
co-, com-, con- 共同の, 共通

(例)    
com-pare con-tinue

contra- 逆の, 反対

(例)    
contra-dict contra--st

counter- 反対, 逆, 対抗

(例)   
counter-attack

de- 奪い取る, 廃止する

(例)   
de-merit

dis- 奪取, 不, 否

(例)    
dis-agree dis-like

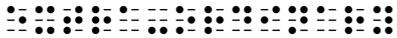
em-, en- …の状態にさせる [する]

(例)    
em-power en-rich

ex- 外へ

(例)    
ex-port ex-ample

extra- …の外の

(例)   
extra-ordinary

fore- …の前の [に]

(例)    
fore-cast                      fore-head

hemi- 片方の

(例)   
hemi-sphere

il-, im-, in-, ir- 否定

(例)    
il-legal                      ir-regular

im-, in- 中に [へ]

(例)    
im-port                      in-door

inter- の間 [内] に, 相互に [の]

(例)    
inter-national                      inter-view

mal- 悪い

(例)   
mal-treat

micro- 小さい, 微少な

(例)    
micro-scope                      micro-wave

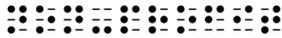
mis- 誤って, 悪い

(例)    
mis-take                      mis-understand

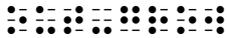
mono- 1, 単 (一) の

(例)    
mono-rail mono-tone

non- 否定の否…, 無…

(例)    
non-stop non-profit

out- 外へ [に], …より多く…する

(例)    
out-door out-grow

over- あまりに, 過度に, 越して

(例)    
over-work over-time

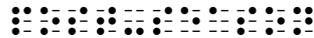
pan- すべての, あまねく, 全

(例)    
Pan-Pacific pan-orama

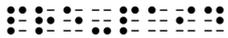
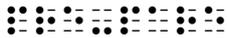
poly- 多くの

(例)    
poly-phenol poly-phony

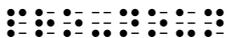
post- …の<sup>のち</sup>後, …の<sup>あと</sup>後で, …<sup>ご</sup>後

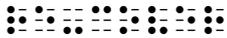
(例)    
post-script post-season

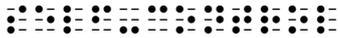
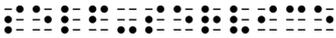
pre- あらかじめ, …<sup>まえ</sup>前の

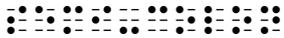
(例)    
pre-paid pre-pare

pro- 代理, 賛成

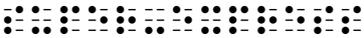
(例)    
pro-noun pro-Japanese

re- 再び…しなおす  
(例)    
re-cover re-form

self- 自ら, 自分で [に, を]  
(例)    
self-control self-service

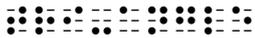
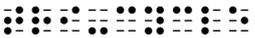
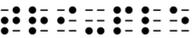
semi- 半分の, 半  
(例)    
semi-colon semi-final

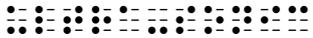
sub- 下の (位の), 副の  
(例)    
sub-way sub-title

super- 非常に, …の上に, 高度の  
(例)    
super-man super-express

syl-, sym-, syn- 共に, 同時, 類似, 合わせて  
(例)    
sym-phony syn-chronize

trans- 変えて, 越えて, 横切って, かなた  
(例)    
trans-form trans-port

tri- 3, 3倍の, 三重の  
(例)     
tri-angle tri-cycle tri-ple

ultra- 超えた, 過ぎた  
(例)    
ultra-sonic ultra-violet

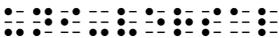
un- 打ち消し, 反対

(例)    
un-happy un-lock

under- 下に [の]

(例)    
under-line under-throw

uni- 一つ, 単 (一) の

(例)    
uni-form uni-versal

up- 上の方に [の, 〜]

(例)    
up-stairs up-load

vice- 代理, 副

(例)    
vice-captain vice-president

接尾辞  (suffix)

-able (-ible) …できる (形)

(例)    
port-able wash-able

-al 状態, 関係などを表す。(形, 名)

(例)    
nation-al music-al

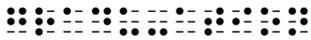
-ance 行動, 状態, 性質を表す。(名)

(例)    
assist-ance perform-ance

-ant …性の, …をする (形)

(例)    
assist-ant inst-ant

-ation 動作や結果の状態を表す。(名)

(例)   
gradu-ation

-cy 職, 地位, 性質, 状態などを表す。(名)

(例)    
fan-cy priva-cy

-ed …した, …もった (形)

(例)    
frighten-ed unit-ed

-ee …されるもの, …を受ける人 (名)

(例)    
employ-ee train-ee

-en 形容詞から動詞を作る。(動)

(例)    
bright-en dark-en

-ence 性質, 状態などを表す。(名)

(例)   
pati-ence

-er …をする人 (物) (名)

(例)    
teach-er clean-er

-ery 製造所, …業 (名)

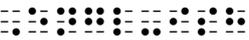
(例)    
bak-ery win-ery



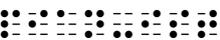
-ine 化学薬品, 女性を表す。(名)

(例)    
caffe-in (e) hero-ine

-ish …らしい, … (地名) の。(形)

(例)    
boy-ish Engl-ish

-ist 人を表す。(名)

(例)    
art-ist pian-ist

-itis (病気の名前の) …炎 (名)

(例)   
appendic-itis

-itude 抽象名詞を作る。(名)

(例)    
at-itude magn-itude

-ity 形容詞に付けて状態を表す名詞を作る。(名)

(例)    
activ-ity real-ity

-ive 傾向, 性質, 機能を表す。(形)

(例)    
act-ive expens-ive

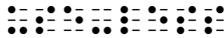
-ize …化する (動)

(例)    
custom-ize memor-ize

-le 反復を表す。(動)

(例)   
twink-le

-less …のない, …できない (形)

(例)    
care-less use-less

-let 小さいもの (名)

(例)    
book-let leaf-let

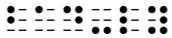
-like …らしい, …のような (形)

(例)    
child-like animal-like

-ling 小さい物, ちっぽけな物 (名)

(例)   
duck-ling

-ly 形容詞や名詞から副詞や形容詞を作る。(副, 形)

(例)    
bad-ly friend-ly

-ment 結果, 手段, 状態を表す。(名)

(例)    
achieve-ment apart-ment

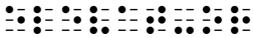
-ness 性質, 状態を表す。(名)

(例)    
kind-ness happi-ness

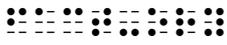
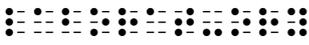
-logy …学 (名)

(例)    
techno-logy eco-logy

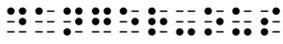
-or …する人 (物) (名)

(例)    
doct-or elevat-or

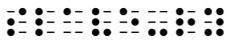
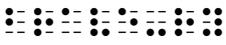
-ory …所, …場 (名)

(例)    
fact-ory                      laborat-ory

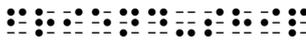
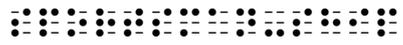
-ous 名詞から形容詞を作る。(形)

(例)    
danger-ous                      fam-ous

-ry 状態, 性質, 学術を表す。(名)

(例)     
slave-ry                      brave-ry                      chemist-ry

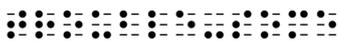
-ship 状態や役割を表す。(名)

(例)    
friend-ship                      sportsman-ship

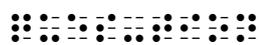
-sion 動作又は状態を表す。(名)

(例)   
vi-sion

-some 傾向, 性質, 状態を表す。(名)

(例)    
trouble-some                      lone-some

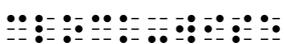
-tion 状態や動作の結果を表す。(名)

(例)    
introduc-tion                      ques-tion

-ward(s) …の方へ。(副)

(例)    
after-ward(s)                      back-ward

-wise …のように (副)

(例)   
clock-wise

-y 名詞から形容詞を作る。(形)

(例)    
luck-y rain-y

## 8. 点字縮約の解説 I

第2学年からは、アメリカやイギリスで現在普通に用いられている英語点字を学ぶ。第1学年で学んだアルファベットや句読符の外に、点字独特の縮約を、よく出てくる単語や綴り字のグループを表すために用いる。点字縮約は、主として読む速さ、特に黙読の速さを普通の文字を読む速さに近付けるために用いられている。さらに、書く速さは、縮約を用いれば普通の文字を書く速さより断然速くなる。そこで、中学生のうちにその記号や使い方をマスターして高等部の教科書や外国の本を自由に読みこなし、英語を一層正確に速く書くことができるようになるろう。

### (1) 縮約語 (Contractions) 一マスであらわすもの34語

#### (a) アルファベットと同じ形のもの

⠠ — b u t    ⠠ — c a n    ⠠ — d o

⠠ — e v e r y    ⠠ — f r o m    ⠠ — g o

⠠ — h a v e    ⠠ — j u s t

⠠ — k n o w l e d g e    (知識)    ⠠ — l i k e

⠠ — m o r e    ⠠ — n o t    ⠠ — p e o p l e

⠠ — q u i t e    ⠠ — r a t h e r    (むしろ)

⠠ — s o    ⠠ — t h a t    ⠠ — u s

⠠ — v e r y    ⠠ — w i l l    ⠠ — i t

⠠ — y o u    ⠠ — a s

#### (b) その他の一マスの縮約語

⠠ — a n d    ⠠ — f o r    ⠠ — o f

⠠ — t h e    ⠠ — w i t h    ⠠ — c h i l d

⠠ — s h a l l    ⠠ — t h i s    ⠠ — w h i c h



⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠

- You' re not as big as that boy.
- (君は、あの男の子ほどそんなに大きくはない。)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠

- He plays go.
- (彼は囲碁をします。)

⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

- The child of the man wants to
- have a cat with black eyes.
- (その男の人の子供は、黒い目の猫を、飼いたがっている。)

⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

- A nation is for the people's
- happiness.
- (国家は人々の幸福のためにあるのです。)

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

- (He likes apples.)

の likes を ls と書いてはならない。また, ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠

(He goes out.) の goes を ges と書いてはならない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

(Bill does not like the peoples.)

の does を des と書いてはならない。また, peoples を ps と書いてはならない。

### (3) 学習のヒント

- (a) アルファベットと同じ形のもののうち, i t と a s 以外は頭文字で表している。また a, i, o はそれだけで単語になるから縮約には用いない。アルファベットと同じ形の縮約語は, 英米でなじみの薄い固有名詞や単語にも使われる。

- (b) d o, g o, l i k e, p e o p l e などの縮約語は, 一マスで語

全体を表すから、活用語尾や複数の - s, - e s が付く場合には、用いることができない。

(c) □⠠□や□⠠□などが、単語の一部として用いられる場合については、Ⅲの縮約部で学ぶ。

(d) “b b u t, b u t b”などと、唱えて記憶するのもよい。

(e) d o, s o の縮約語は音階をあらわす時にも使える。



— S o i s t h e f i f t h n o t e i n a m u s i c a l  
s c a l e .

9. 点字縮約の解説Ⅱ

(1) 縮約語 (C o n t r a c t i o n s) ニマスであらわすもの33語

(a) 5の点と組み合わせるもの

⠠⠃⠠⠃⠠ — d a y    ⠠⠃⠠⠃⠠ — e v e r    ⠠⠃⠠⠃⠠ — f a t h e r

⠠⠃⠠⠃⠠ — h e r e    ⠠⠃⠠⠃⠠ — k n o w

⠠⠃⠠⠃⠠ — l o r d (君主)    ⠠⠃⠠⠃⠠ — m o t h e r

⠠⠃⠠⠃⠠ — n a m e    ⠠⠃⠠⠃⠠ — o n e

⠠⠃⠠⠃⠠ — p a r t    ⠠⠃⠠⠃⠠ — q u e s t i o n

⠠⠃⠠⠃⠠ — r i g h t    ⠠⠃⠠⠃⠠ — s o m e    ⠠⠃⠠⠃⠠ — t i m e

⠠⠃⠠⠃⠠ — u n d e r    ⠠⠃⠠⠃⠠ — w o r k    ⠠⠃⠠⠃⠠ — y o u n g

⠠⠃⠠⠃⠠ — t h e r e    ⠠⠃⠠⠃⠠ — c h a r a c t e r

⠠⠃⠠⠃⠠ — t h r o u g h    ⠠⠃⠠⠃⠠ — w h e r e

⠠⠃⠠⠃⠠ — o u g h t (o u g h t t o ~ …すべきである)

(b) 4・5の点と組み合わせるもの

⠠⠃⠠⠃⠠ — u p o n (o nと同じ意味)    ⠠⠃⠠⠃⠠ — w o r d

⠠⠃⠠⠃⠠ — t h e s e    ⠠⠃⠠⠃⠠ — t h o s e

⠠⠃⠠⠃⠠ — w h o s e

(c) 4・5・6の点と組み合わせるもの

⠠⠃⠠⠃⠠ — c a n n o t    ⠠⠃⠠⠃⠠ — h a d    ⠠⠃⠠⠃⠠ — m a n y

⠠⠃⠠⠃⠠ — s p i r i t (精神)    ⠠⠃⠠⠃⠠ — w o r l d

⠠⠃⠠⠃⠠ — t h e i r

(2) 使い方

これらの33語は、前置点と頭文字との二マスで表した縮約語である。

これらはInitial-letter contractions (語頭縮約) と呼ばれる。これらの前後は、一マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

- (a) コンマ、セミコロン、コロン、ピリオドなどの句読符とは続ける。
- (b) 大文字符、イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。
- (c) これらが語の一部であっても、元の発音を残し、意味が不明瞭にならない場合は、これらを他の綴りと続けて用いることができる。

(使い方の例)

⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

- Do you know the name of my mother?  
(あなたは、ぼくの母の名前を知っていますか。)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

- Their father had many younger sisters.  
(彼らの父親には、妹がたくさんいました。)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

- There are some people under the tree.  
(その木の下に何人かの人があります。)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

- Those people cannot go there.  
(あの人たちは、そこへ行けません。)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

- These people are very young.  
(この人たちは、とても若い。)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠

— Many boys and girls are here and  
there.

(たくさんの男の子や女の子があちこちにいます。)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

— All right, Mother!

(いいよ、お母さん。)

⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

— Where do you come from? Where do  
you go?

(どこから来て、どこへ行くの。)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

— Once upon a time, there was an old  
man.

(むかし、むかし、ひとりのおじいさんがいました。)

⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠

— Whose car is that blue one?

(あの青いのは、だれの車ですか。)

⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

— The dog ran through the woods.

(その犬は、森を走り抜けた。)

⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

— I cannot work there.

(私は、そこでは働けない。)

⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠

— Have you ever seen the young man?

(今までにその青年に会ったことがありますか。)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠  
— May I ask you a question?  
(質問してもいいですか。)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠  
— Asia is a part of the world.  
(アジアは、世界の一部です。)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — Sunday

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — everybody

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — someone

⠠⠠⠠⠠ — party

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — part-time

⠠⠠⠠⠠ — questions

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — sometimes

⠠⠠⠠⠠ — works

⠠⠠⠠⠠ — characters

⠠⠠⠠⠠ — words

⠠⠠⠠⠠ — spirits

⠠⠠⠠⠠ — theirs

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — hadn't

⠠⠠⠠⠠ — never

(使ってはならない例)

c o u p o n (割引券) を  $\ddot{\text{c}}\ddot{\text{o}}\ddot{\text{u}}\ddot{\text{p}}\ddot{\text{o}}\ddot{\text{n}}$  と書いてはならない。

(※意味に注意 u p o nの意味が失われる場合は使えない。

s h a d o wを  $\ddot{\text{s}}\ddot{\text{h}}\ddot{\text{a}}\ddot{\text{d}}\ddot{\text{o}}\ddot{\text{w}}$  と書いてはならない。(  $\ddot{\text{s}}\ddot{\text{h}}\ddot{\text{a}}\ddot{\text{d}}\ddot{\text{o}}$  のように  
1マスの縮約部を優先させて書く。詳しくは、解説のⅢを参照すること)

b e l i e v e r (信者) は  $\ddot{\text{b}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{l}}\ddot{\text{i}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{v}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{r}}$  と書いてはならない。

(e v e rの最初のeにアクセントが来ない場合や、前にeやiが来る場合には用いることが出来ない)

a d h e r e d (くっつくの過去形) を  $\ddot{\text{a}}\ddot{\text{d}}\ddot{\text{h}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{r}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{d}}$  と書いてはならない。

n a m eとh e r eは一音節でない場合と、あとに、d, n, rが続く場合は、e d, e n, e rの縮約部を優先させて書く。詳しくは、解説のⅢを参照すること) よって、e n a m e l [inæməɫ] (ほうろう) を  $\ddot{\text{e}}\ddot{\text{n}}\ddot{\text{a}}\ddot{\text{m}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{l}}$  と書いてはならない。

o n e は o n e y で終わる語や、h o n e s t (正直な) や m o n e t a r y (通貨の) 及びこれらの派生語では使えるが、o n eが一音節でない場合や、前にoが来る場合には使えない。さらに、あとに、d, n, rが続く場合は、e d, e n, e r縮約部を優先させて書く。詳しくは、解説のⅢを参照すること。これらの理由で、p i o n e e r (開拓者) を  $\ddot{\text{p}}\ddot{\text{i}}\ddot{\text{o}}\ddot{\text{n}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{r}}$ , s o o n e r (s o o nの比較級) は  $\ddot{\text{s}}\ddot{\text{o}}\ddot{\text{o}}\ddot{\text{n}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{r}}$ , c u s h i o n e d (クッションのついた) を  $\ddot{\text{c}}\ddot{\text{u}}\ddot{\text{s}}\ddot{\text{h}}\ddot{\text{i}}\ddot{\text{o}}\ddot{\text{n}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{d}}$  と書いてはならない。b l o s s o m e d (開花するの過去形) を  $\ddot{\text{b}}\ddot{\text{l}}\ddot{\text{o}}\ddot{\text{s}}\ddot{\text{s}}\ddot{\text{o}}\ddot{\text{m}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{d}}$  と書いてはならない。(s o m eがb l o s s o mの音節を形成していないため) c e n t i m e t e r [sɛntimɪtəɹ] を  $\ddot{\text{c}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{n}}\ddot{\text{t}}\ddot{\text{i}}\ddot{\text{m}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{t}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{r}}$  と書いてはならない。(※発音に注意 t i m e [taim]と発音されない場合は使えない)

b o u n d e r [baundəɹ] (成り上がり者) を  $\ddot{\text{b}}\ddot{\text{a}}\ddot{\text{u}}\ddot{\text{n}}\ddot{\text{d}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{r}}$  と書いてはならない。  
(※u n d e rの前にa, oが来る時と、u nが接頭辞として用いられる場合は使えない)

### (3) 学習のヒント

- (a) 縮約語としての使い方は、二マスも一マスの場合と同じである。
- (b)  $\ddot{\text{n}}\ddot{\text{a}}\ddot{\text{m}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{d}}$  (n a m e d),  $\ddot{\text{s}}\ddot{\text{o}}\ddot{\text{m}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{t}}\ddot{\text{i}}\ddot{\text{m}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{s}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{s}}$  (s o m e t i m e s)などは、もとの発音を残し、意味も明瞭だから用いてもよいが、 $\ddot{\text{e}}\ddot{\text{n}}\ddot{\text{a}}\ddot{\text{m}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{l}}$  (e n a m e l),  $\ddot{\text{c}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{n}}\ddot{\text{t}}\ddot{\text{i}}\ddot{\text{m}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{t}}\ddot{\text{e}}\ddot{\text{r}}$  (c e n t i m e t e r)などは、発音も異なり、音節や語の構成要素の区切り目を越えるので、縮約語を用

いることはできない。

(c) 「5の点にdは, d a y」などと友達と交替で当て合うのもよい。

\* 意味と関連させて記憶するのもよい。

⠠⠠⠠ (h e r e)      ⠠⠠⠠⠠ (t h e r e)      ⠠⠠⠠⠠ (w h e r e)

⠠⠠⠠⠠ (f a t h e r)      ⠠⠠⠠⠠ (m o t h e r)

⠠⠠⠠⠠ (m a n y)      ⠠⠠ (m o r e)

⠠⠠ (c a n)      ⠠⠠⠠⠠ (c a n n o t)

⠠⠠ (h a v e)      ⠠⠠⠠⠠ (h a d)      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (h a d n' t)

⠠⠠⠠⠠ (k n o w)      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (k n o w n)      ⠠⠠⠠ (k n o w l e d g e)

⠠⠠⠠ (t h i s)      ⠠⠠⠠⠠⠠ (t h e s e)

⠠⠠⠠ (t h a t)      ⠠⠠⠠⠠⠠ (t h o s e)

⠠⠠⠠⠠⠠ (t h e y)      ⠠⠠⠠⠠⠠ (t h e i r)      ⠠⠠⠠⠠⠠ (t h e m)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (t h e i r s)

10. 点字縮約の解説Ⅲ

(1) 縮約部 (Groups signs) 1マスであらわすもの19個

(a) 一マスの縮約部の中で、他に優先して用いられるもの

⠠ — a n d ⠠ — f o r ⠠ — o f ⠠ — t h e  
⠠ — w i t h

(b) いくつかの例外を除き、複合語の要素をまたがない限り、単語のどの部分にも用いるもの

⠠ — c h ⠠ — g h ⠠ — s h ⠠ — t h  
⠠ — w h ⠠ — e d ⠠ — e r ⠠ — o u  
⠠ — o w ⠠ — s t ⠠ — a r □⠠□ — e n  
□⠠□ — i n

(c) 単語のはじめの部分には用いないもの

⠠ — i n g

(2) 縮約部 (Groups signs) 2マスであらわすもの12個

(a) 4・6の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — o u n d ⠠⠠ — a n c e ⠠⠠ — s i o n  
⠠⠠ — l e s s ⠠⠠ — o u n t

(b) 5・6の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — e n c e ⠠⠠ — o n g ⠠⠠ — f u l  
⠠⠠ — t i o n ⠠⠠ — n e s s ⠠⠠ — m e n t  
⠠⠠ — i t y

(3) 使い方

これら31の縮約部は、単語の中のそれに対応する綴り字を、一マスか二マスの記号に縮めて表すために用いられる。これらは、複合語の各要素の間を

またいでは用いられない。また、同じ場所で二つ以上の縮約部の使用が可能な場合には、マス数を節約できる方が選ばれる。マス数が同じであれば一マスの縮約部が優先される。中でも、a n d, f o r, o f, t h e, w i t h の縮約部は、他に優先して用いる。(2)の縮約部は語尾縮約部

(F i n a l - l e t t e r c o n t r a c t i o n s)と呼ばれる。これらの一マスと二マスの縮約部は、一部の例外を除いて、原則として句読符や点字独特の記号と続けて用いる。これらの使い方の次のとおりである。

(a) 一マスの縮約部の場合

a n d, f o r, o f, t h e, w i t hの縮約部は、単語のはじめの部分、単語の中の部分及び単語の後ろの部分のどの部分にも用いることができる。また、二つ以上の縮約部が用いられる可能性があるときは、節約できるマス数が同じ場合、これらが優先して用いられる。これら五つの縮約語としての用法は、既に点字縮約の解説Iで説明されている。これらは、一マスの縮約語として用いられる場合も、一マスの縮約部として用いられる場合も、これらに対応する綴り字は、全く同じであるが、用法は異なるので、混同しないように注意する必要がある。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠⠠ — A n d r e w      ⠠⠠⠠ — c a n d y

⠠⠠ — h a n d      ⠠⠠ — f o r m (型)

⠠⠠⠠⠠ — e f f o r t      ⠠⠠⠠⠠⠠ — o f f i c e

⠠⠠⠠ — s o f t      ⠠⠠⠠ — r o o f (屋根)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — p r o f e s s o r      ⠠⠠ — t h e n

⠠⠠⠠ — o t h e r      ⠠⠠⠠ — w i t h o u t

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( s o u t h e a s t ) は複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。



⠠⠃⠑⠎⠞ — b e s t    ⠠⠎⠊⠎⠞⠑⠗ — s i s t e r

⠠⠎⠞⠁⠗⠞ — s t a r t    ⠠⠓⠊⠎⠞⠁⠎⠞⠑ — m i s t a k e

⠠⠁⠗⠓ — a r m    ⠠⠁⠗⠑⠗⠏⠗ — a r e n ' t

⠠⠔⠑⠗⠑⠗⠏⠗ — w e r e n ' t    ⠠⠓⠁⠔⠑⠗⠏⠗ — h a v e n ' t

⠠⠑⠗⠗⠊⠎⠓ — E n g l i s h

⠠⠔⠋⠞ — o f t e n    ⠠⠊⠗⠎ — i n k

⠠⠞⠓⠊⠗⠎ — t h i n k

(使ってはならない例)

m i s h a n d l e (まずい処理をする) — ⠠⠓⠊⠎⠞⠁⠗⠞⠑⠗⠏⠗  
(hを発音するので、shは使えない)

⠠⠗⠊⠒⠓⠔⠑⠗⠏⠗ (l i g h t h o u s e) は、複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで、⠠⠗⠊⠒⠓⠔⠑⠗⠏⠗とは書けない。

⠠⠒⠗⠁⠎⠎⠓⠔⠑⠗⠏⠗ (g r a s s h o p p e r)  
(g r a s s h o p p e r) (きりぎりす) は、複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで、⠠⠒⠗⠁⠎⠎⠓⠔⠑⠗⠏⠗とは書けない。

⠠⠗⠁⠔⠓⠊⠔⠑ (r a w h i d e) (生皮) も、同じく⠠⠗⠁⠔⠓⠊⠔⠑とは書けない。

⠠⠎⠞⠁⠞⠑⠗⠔⠑⠗⠏⠗ (s t a t e r o o m) (s t a t e - r o o m)  
(特等室) は、複合語であるから、そのつなぎ目をまたいで、  
⠠⠎⠞⠁⠞⠑⠗⠔⠑⠗⠏⠗とは書けない。

(c) i n gを表す縮約部は、単語のはじめには用いない。

(使い方の例)

⠠⠎⠞⠁⠗⠞⠊⠒ — s t a n d i n g    ⠠⠎⠊⠒⠊⠒ — s i n g i n g

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

⠠⠠ morning を morn で改行する場合, ⠠⠠ ではなく,  
⠠⠠⠠ と書かなければならない。

(d) ニマスの縮約部の場合

ニマスの短縮部は、単語のはじめには用いない。単語の中の部分、単語の後ろの部分に用いる。ただし、ハイフンやアポストロフィーの後ろ及び2行にまたがる単語の次の行のはじめには用いない。また、ニマスの縮約部は、縮約語として語全体を表すために用いることは決してない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠ — round    ⠠⠠⠠ — sound

⠠⠠⠠ — dance

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — assistance (手伝い)

⠠⠠⠠⠠ — danced    ⠠⠠⠠⠠ — dancer

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — television (テレビ)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — useless (役に立たない)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — mountain

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — country

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — science

⠠⠠⠠⠠ — longer    ⠠⠠⠠ — song

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — wonderful (すばらしい)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — faithfully (忠実に)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — section

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — u s e f u l n e s s (有用)

⠠⠠⠠⠠ — m o m e n t

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (a n c e s t o r 先祖) の a n c e は、語のはじめだから、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (l e s s o n) も⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (f u l f i l l 果たす) も、同じく⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (g r e y ' o u n d) (グレーハウンド種の) の o u n d は、アポストロフィーの後だから、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (c o m - p l i - m e n t) (おせじ) の m e n t は、ハイフンの後であるから、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ f u n d a m e n t a l (根本的な) を f u n d a で行替える場合、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ではなく、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠と書かなければならない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (l e s s) (より少ない) は、独立した単語であるから、⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

### (3) 学習のヒント

- (a) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ □⠠⠠⠠□の六つは、単語の一部を表す縮約部と、語全体を表す縮約語の形が同じであるが、用法は異なる。
- (b) ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ □⠠⠠⠠□の七つは、これらが表す単語の最初の2文字と、縮約部が表す綴り字とは同じであるが、縮約語と縮約部の用法は、異なっている。
- (c) i n gを表す一マスの縮約部は、二マスの縮約部と用法が似ている。二マスの短縮部が語のはじめに用いられないのは、イタリック符、又は

文字符などと混同されるのを避けるためである。また、ハイフンの後ろに、これらが用いられないのも、同じ理由によるものである。

- (d) ニマスの縮約部は、一連の綴り字（多くは接尾辞）の最後の文字に2種類の点を前置したものである。
- (e) 縮約部は、読み方から先に学ぼう。書き方を正確に学ぶためには、語源や接頭辞、接尾辞、又は音節の区切り方を学ぶ必要があるからである。

11. 点字縮約の解説IV

(1) 省略形 (Short forms)

(a) 最初の二マスを残して後ろを省略する場合

⠠⠠ — a b o u t

⠠⠠ — a c c o r d i n g  
(a c c o r d i n g t o ~ )

⠠⠠ — a f t e r    ⠠⠠ — a g a i n    ⠠⠠ — a l s o

⠠⠠ — b e c a u s e    ⠠⠠ — b e f o r e

⠠⠠ — b e h i n d

⠠⠠ — b e l o w

⠠⠠ — b e n e a t h (…の下に)

⠠⠠ — b e s i d e

⠠⠠ — b e t w e e n

⠠⠠ — b e y o n d

⠠⠠ — b l i n d    ⠠⠠ — e i t h e r (どちらか)

⠠⠠ — f r i e n d

(b) 骨組みだけを残して、母音などを省略する場合

⠠⠠ — c h i l d r e n    ⠠⠠ — c o u l d

⠠⠠ — f i r s t    ⠠⠠ — g o o d

⠠⠠ — h i m    ⠠⠠ — i t s

⠠⠠⠠ — l e t t e r    ⠠⠠⠠ — l i t t l e  
 ⠠⠠⠠ — m u c h    ⠠⠠⠠ — m u s t  
 ⠠⠠⠠ — p a i d    ⠠⠠⠠ — q u i c k (すばやい)  
 ⠠⠠⠠ — s a i d    ⠠⠠⠠ — s h o u l d  
 ⠠⠠⠠ — s u c h    ⠠⠠⠠ — t o d a y  
 ⠠⠠⠠ — t o m o r r o w    ⠠⠠⠠ — t o n i g h t  
 ⠠⠠⠠ — w o u l d    ⠠⠠⠠ — y o u r  
 ⠠⠠⠠⠠ — a b o v e (上に)    ⠠⠠⠠⠠ — a f t e r n o o n  
 ⠠⠠⠠⠠ — a f t e r w a r d (あとで)  
 ⠠⠠⠠⠠ — a g a i n s t  
 ⠠⠠⠠⠠ — b r a i l l e (点字)    ⠠⠠⠠⠠ — g r e a t  
 ⠠⠠⠠⠠ — t o g e t h e r

(2) 使い方

これら43語の省略形は、ひと続きに書き、行末でも切らない。また省略形の前後ろは、一マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

- (a) コンマ、セミコロン、コロンの句読符とは続ける。
- (b) 大文字、イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。
- (c) これらから派生した語の場合など、発音や意味を不明瞭にしない限り、接頭辞や接尾辞と続けて用いる。その際、その派生語が行末に書ききれないときには、つなぎ目で切り、行末にハイフンを添えるが、省略語そのものは2行に分けてはならない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠

— Y o u r f r i e n d m u s t r u n a f t e r h i m .

(あなたの友達は、彼を追いかけてねばならない。)

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

— T h e i r c h i l d r e n w i l l g o t h e r e  
b e f o r e l u n c h t o m o r r o w .

(彼らの子供たちは、明日昼食前にそこへ行くだろう。)

⠠⠠⠠⠠ — b e s i d e s

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — b l i n d f o l d (目かくしをする)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — f r i e n d l y

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — g o o d b y e

⠠⠠⠠⠠ — l e t t e r s

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — m u s t n ' t

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — q u i c k e n (いそがせる)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — h e r e a f t e r (今後)

⠠⠠⠠⠠ — y o u r s

(使ってはならない例)

d r a f t e r [d r æ f t § r] (d r a f t - e r) (製図器) を  
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。(※音節注意)

s h o u l d e r [ , ó u l d § r] (肩) を ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠と書いてはならない。(※発音注意)

(3) 学習のヒント

(a) 省略形の使い方は、二マスの縮約語と原則的には同じである。

- (b) 省略形を読み，その綴りを言ったり，逆に綴りを読みながら省略形を言うなどして記憶するのもよい。
- (c) 省略形は数も多く，初歩の読み物では，あまり多く出てこないものもあるので，教科書に出てきた順序に記憶しておくのもよい方法である。

\* 意味と関連させて整理するのもよい。

⠠⠠⠠ ( b l i n d )      ⠠⠠⠠⠠⠠ ( b r a i l l e )

⠠⠠ ( c h i l d )      ⠠⠠⠠⠠ ( c h i l d r e n )

⠠⠠ ( c a n )      ⠠⠠⠠⠠ ( c o u l d )      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( c o u l d n ' t )

⠠⠠ ( s h a l l )      ⠠⠠⠠⠠ ( s h o u l d )      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( s h o u l d n ' t )

⠠⠠ ( w i l l )      ⠠⠠⠠⠠ ( w o u l d )      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( w o u l d n ' t )

⠠⠠⠠⠠ ( l i t t l e )      ⠠⠠⠠⠠ ( m u c h )      ⠠⠠⠠⠠ ( m a n y )

⠠⠠ ( m o r e )

⠠⠠⠠⠠ ( a f t e r )      ⠠⠠⠠⠠ ( b e f o r e )

⠠⠠⠠⠠ ( b e t w e e n )      ⠠⠠⠠⠠ ( b e h i n d )

⠠⠠⠠⠠ ( b e s i d e )

⠠⠠⠠⠠ ( b e l o w )      ⠠⠠⠠⠠ ( b e n e a t h )      ⠠⠠⠠⠠ ( u n d e r )

⠠⠠⠠⠠⠠ ( s a y )      ⠠⠠⠠⠠ ( s a i d )

⠠⠠⠠⠠⠠ ( p a y )      ⠠⠠⠠⠠ ( p a i d )

⠠⠠⠠⠠ ( t o d a y )      ⠠⠠⠠⠠ ( t o m o r r o w )      ⠠⠠⠠⠠ ( t o n i g h t )

12. 点字縮約の解説V

(1) 省略形 (Short forms)

(a) 最初の3マスを残して、後ろを省略する場合

⠠⠠⠠⠠ — a c r o s s    ⠠⠠⠠⠠ — a l m o s t

⠠⠠⠠⠠ — a l r e a d y    ⠠⠠⠠⠠ — a l w a y s

⠠⠠⠠⠠ — a l t o g e t h e r (全く)

⠠⠠⠠⠠ — a l t h o u g h (・・・だけれども)

⠠⠠⠠⠠ — i m m e d i a t e (直接の)

⠠⠠⠠⠠ — n e c e s s a r y

⠠⠠⠠⠠ — n e i t h e r (n e i t h e r A n o r B  
AもBも～ない)

⠠⠠⠠⠠ — p e r h a p s (たぶん)

(b) …s e l f, …s e l v e s が付く語の一部を省略する場合

⠠⠠⠠⠠ — m y s e l f    ⠠⠠⠠⠠ — y o u r s e l f

⠠⠠⠠⠠ — h i m s e l f    ⠠⠠⠠⠠ — h e r s e l f

⠠⠠ — i t s e l f    ⠠⠠⠠⠠ — o n e s e l f

⠠⠠⠠⠠ — t h y s e l f (汝自身)

⠠⠠⠠⠠ — o u r s e l v e s

⠠⠠⠠⠠ — y o u r s e l v e s

⠠⠠⠠⠠ — t h e m s e l v e s

(c) eを省いて現在分詞を作る語の一部を省略する場合

⠠⠠⠠⠠⠠ — c o n c e i v e (思いつく)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — c o n c e i v i n g

⠠⠠⠠⠠ — d e c e i v e (だます)

⠠⠠⠠⠠⠠ — d e c e i v i n g

⠠⠠⠠⠠ — d e c l a r e (宣言する)

⠠⠠⠠⠠⠠ — d e c l a r i n g

⠠⠠⠠⠠⠠ — p e r c e i v e (気がつく)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — p e r c e i v i n g

⠠⠠⠠⠠ — r e c e i v e

⠠⠠⠠⠠⠠ — r e c e i v i n g

⠠⠠⠠⠠ — r e j o i c e (喜ばせる)

⠠⠠⠠⠠⠠ — r e j o i c i n g

(2) 使い方

これら32語の省略形は、ひと続きに書き、行末でも切らない。また省略形の前後ろは、一マスあける。ただし、次の場合は、マスあけしない。

- (a) コンマ, セミコロン, コロン, ピリオドなどの句読符とは続ける。
- (b) 大文字, イタリック符などの点字独特の記号とは続ける。
- (c) これらから派生した語の場合など, 発音や意味を不明瞭にしない限り, 接頭辞や接尾辞と続けて用いる。その際, その派生語が行末に書ききれないときには, つなぎ目で切り, 行末にハイフンを添えるが, 省略形そのものは2行に分けてはならない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

一 P l e a s e h e l p y o u r s e l f .

(どうぞご自由にお食べください。)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠

一 I ' m a l w a y s h u n g r y e v e r y  
a f t e r n o o n .

(私は、いつも午後は空腹です。)

(3) 学習のヒント

- (a) 省略語の使い方は、二マスの短縮語と原則的には同じである。
- (b) 省略語を読み、その綴りを言ったり、逆に綴りを読みながら省略語を言うなどして記憶するのもよい。
- (c) 省略語は数も多く、初歩の読み物では、あまり多く出てこないものもあるので、教科書に出てきた順序に記憶しておくのもよい方法である。

\* 意味と関連させて整理するのもよい。

⠠⠠⠠⠠ ( e i t h e r )      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( n e i t h e r )

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( a l r e a d y )      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( a l w a y s )

⠠⠠⠠ ( y o u )      ⠠⠠⠠⠠ ( y o u r )      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( y o u r s )

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( y o u r s e l f )      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( y o u r s e l v e s )

⠠⠠⠠ ( i t )      ⠠⠠⠠⠠ ( i t s )      ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( i t s e l f )

⠠⠠⠠⠠ ( t h e y )      ⠠⠠⠠⠠ ( t h e i r )      ⠠⠠⠠⠠ ( t h e m )

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ( t h e m s e l v e s )





(使ってはならない例)

— 

I t w a s e n o u g h .



e n o u g h / s u f f i c i e n t

(両方とも ではなく、と書かなければならない。

### (3) 学習のヒント

これらの下がり縮約語は、1又は4の点を含まない句読符だけとは続けられない。ただし、それらの句読符に、1又は4の点を含む文字列もしくは記号が続く場合には、使うことが出来るので注意を要する

14. 点字略字の解説Ⅶ

(1) 下がりの縮約部 (Lower group signs)

(a) 単語の始めの部分にだけ用いるもの

⠠⠠ — b e    ⠠⠠ — c o n    ⠠⠠ — d i s

(b) 単語の中の部分にだけ用いるもの

⠠⠠⠠⠠ — e a    ⠠⠠⠠⠠ — b b

⠠⠠⠠⠠ — c c    ⠠⠠⠠⠠ — f f

⠠⠠⠠⠠ — g g

(2) 使い方

句読符と同じように、1の点も4の点も含んでいない下がり記号の縮約語は、互いに続けられないことを既に学んでいる。e nとi nの綴り字を表す二つの縮約部だけは、下がり記号であっても、制限つきではあるが、他の1マスの縮約部と共に単語の終わりの部分にも用いることができた。しかしながら、ここで扱う8個の下がり記号の短縮部は、単語のはじめか中のどちらか一つの部分にしか使えず、その用法も厳しく制限されている。

- (a) b e, c o n, d i sを表す縮約部は、単語のはじめの音節に用いる。さらに、複合語のハイフンの後ろ及びダッシュやアポストロフィーの後ろに続けて用いる。また、大文字やイタリック符の後ろに続けて用いる。ただ、大文字や大文字終止符が、あとに続く場合はこれらの縮約部は使えない。

(使い方の例)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — b e l i e v e

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — d i s c o v e r

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — c o n c e r t

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — s e l f - c o n t r o l (自制)

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠ (b e s t) の b e は、独立した1音節ではないので、⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠ (d i s h) も、同じく⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (u n b e l i e v a b l e) (信じられない) の b e は、接頭辞の u n と結合して、語の中の部分となったので、



⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — se a s ho r e (海岸)  
 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — so u t h e a s t (南東)  
 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — un e a s y (不安な)  
 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — c h a n g e a b l e (変更可能の)

(使ってはならない例)

⠠⠠⠠⠠ (e a t) の e a は、語のはじめの部分であるから、⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠ (t e a) の e a は、語の後ろの部分であるから、⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (pi n e a p p l e) (パイナップル) の e a は、複合語の各要素の間の音節をまたいでいるので、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠ (y e ar) の a r は、e a より優先されるので、⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (th e a t e r) の t h e も、e a より優先されるので、⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (s e a - s n a k e) (海へび) の e a は、ハイフンとつながっているため、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (so u' e a s t) (s o u t h e a s t の短縮形) の e a は、アポストロフィーとつながっているため、⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠とは書けない。

### (3) 学習のヒント

下がり記号の縮約語と縮約部を、句読符と共に前後ろのマスあけの関係で関連付けて整理するとよい。

2 の点は、前に続けるとコンマになり、前後ろに続けると e a の縮約部となる。しかし、後ろにだけ続けたり、前後ろをあけたりする場合はない。

2・3 の点は、前に続ければセミコロン、前後ろに続けると b b の縮約部、後ろに続けると b e の縮約部、前後ろをあけると b e の縮約語となる。

2・5 の点は、前に続けるとコロン、前後ろ続きが c c の短縮部、後ろ続きは c o n の縮約部となるが、前後ろあけはない。

また、2・5・6 の点も、前続きは終止符、後ろ続きは d i s の縮約部になる。

2・6 の点は、前、前後ろ又は後ろに続ければ、e n の短縮部となり、前後ろあけは e n o u g h の短縮語となる。

2・3・5 の点は、前に続ければ感嘆符、前後ろ続きが f f の短縮部になる。

2・3・5・6 の点は、前後ろ続きは g g の縮約部、前後ろあけは w e r e の縮約語となる。

2・3・6の点は、前に続けば疑問符、後ろに続けばコーテーションマークの開き、前後ろあけはh i sの短縮語となる。

3・5の点は、i nを表すが、前後ろあけは縮約語、その他は縮約部である。

3・5・6の点は、前に続けばコーテーションマークの閉じ記号で、前後ろあけはw a sの短縮語となる。

最後に、3・6の点は、前に続けば行末のハイフン、前後ろに続ければ普通のハイフンになる。

(4) 点字縮約を学び終えて

これで、米英で普通に用いられている標準的な英語の点字を学ぶことができた。まず、点字略字を用いないg r a d e Iの英語の点字を学んだ後、点字縮約を含むg r a d e IIの英語の点字を七つの段階に分けて学んだ。最初の2つの段階は、単語全体を一マスや二マスの点字に短縮して表す縮約語、次の段階は一マス又は二マスで単語の一部を表す縮約部、そのあとに続く2つの段階は綴りの一部を使って単語を表す省略形、最後の2つは下がり記号で単語を表す縮約語と、下がり記号で単語の一部を表す縮約部である。

なお、これらの七つの段階に点字縮約を整理して、次の章に段階別一覧表を掲げた。これで、米英の書籍や雑誌及び盲学校高等部の点字の教科書を自由に読むことができ、英文を速く正確に書くための基礎的能力を習得したことになる。更に、一層正確に書くためには規則を完全に習熟することが必要である。

1 5. 英語の点字縮約段階別一覧表

(1) 縮約語 (Contractions) 1 マスのもの

(a) アルファベットと同じ形のもの

⠠ — but    ⠠ — can    ⠠ — do  
 ⠠ — every    ⠠ — from    ⠠ — go  
 ⠠ — have    ⠠ — just    ⠠ — knowledge  
 ⠠ — like    ⠠ — more    ⠠ — not  
 ⠠ — people    ⠠ — quite    ⠠ — rather  
 ⠠ — so    ⠠ — that    ⠠ — us  
 ⠠ — very    ⠠ — will    ⠠ — it  
 ⠠ — you    ⠠ — as

(b) その他の1マスの縮約語

⠠ — and    ⠠ — for    ⠠ — of    ⠠ — the  
 ⠠ — with    ⠠ — child    ⠠ — shall  
 ⠠ — this    ⠠ — which    ⠠ — out  
 ⠠ — still

(2) 縮約語 (Contractions) 2 マスのもの

(a) 5の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — day    ⠠⠠ — ever    ⠠⠠⠠ — father  
 ⠠⠠ — here    ⠠⠠ — know    ⠠⠠⠠ — lord  
 ⠠⠠ — mother    ⠠⠠ — name    ⠠⠠⠠ — one  
 ⠠⠠ — part    ⠠⠠ — question  
 ⠠⠠ — right    ⠠⠠ — some    ⠠⠠⠠ — time  
 ⠠⠠ — under    ⠠⠠ — work    ⠠⠠⠠ — young  
 ⠠⠠ — there    ⠠⠠ — character  
 ⠠⠠ — through    ⠠⠠ — where    ⠠⠠⠠ — ought

(b) 4・5の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — upon    ⠠⠠ — word    ⠠⠠⠠ — these  
 ⠠⠠ — those    ⠠⠠ — whose

(c) 4・5・6の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — cannot    ⠠⠠ — had    ⠠⠠⠠ — many

⠠⠠⠠ — spirit    ⠠⠠⠠ — world    ⠠⠠⠠ — their

(3) 1マスと2マスの縮約部

縮約部 (Wordsigns) 1マスのもの

(a) 1マスの縮約部の中で、他に優先して用いられるもの

⠠ — and    ⠠ — for    ⠠ — of    ⠠ — the  
⠠ — with

(b) 原則として、音節をまたがない限り、単語のどの部分にも用いるもの

⠠ — ch    ⠠ — gh    ⠠ — sh    ⠠ — th  
⠠ — wh    ⠠ — ed    ⠠ — er    ⠠ — ou  
⠠ — ow    ⠠ — st    ⠠ — ar    □⠠□ — en  
□⠠□ — in

(c) 単語のはじめの部分には用いないもの

⠠ — ing

2マスの縮約部 (Final-letter groupsigns)

(a) 4・6の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — ound    ⠠⠠ — ance    ⠠⠠ — sion  
⠠⠠ — less    ⠠⠠ — ount

(b) 5・6の点と組み合わせるもの

⠠⠠ — ence    ⠠⠠ — ong    ⠠⠠ — ful  
⠠⠠ — tion    ⠠⠠ — ness    ⠠⠠ — ment  
⠠⠠ — ity

(4) 省略形 (Shortforms) 1

(a) 最初の2マスを残して後ろを省略する場合

⠠⠠ — about    ⠠⠠ — according  
⠠⠠ — after    ⠠⠠ — again    ⠠⠠ — also  
⠠⠠ — because    ⠠⠠ — before  
⠠⠠ — behind    ⠠⠠ — below  
⠠⠠ — beneath    ⠠⠠ — beside  
⠠⠠ — between    ⠠⠠ — beyond  
⠠⠠ — blind    ⠠⠠ — either

⠠⠋⠢⠠ — friend

(b) 骨組みだけを残して、母音などを省略する場合

⠠⠋⠢⠠ — children    ⠠⠠⠠ — could  
⠠⠠⠠ — first    ⠠⠠⠠ — good    ⠠⠠⠠ — him  
⠠⠠⠠ — its    ⠠⠠⠠ — letter    ⠠⠠⠠ — little  
⠠⠠⠠ — much    ⠠⠠⠠ — must    ⠠⠠⠠ — paid  
⠠⠠⠠ — quick    ⠠⠠⠠ — said    ⠠⠠⠠ — should  
⠠⠠⠠ — such    ⠠⠠⠠ — today  
⠠⠠⠠ — tomorrow    ⠠⠠⠠ — tonight  
⠠⠠⠠ — would    ⠠⠠⠠ — your  
⠠⠠⠠ — above    ⠠⠠⠠ — afternoon  
⠠⠠⠠ — afterward    ⠠⠠⠠ — against  
⠠⠠⠠ — braille    ⠠⠠⠠ — great  
⠠⠠⠠ — together

(5) 省略形 (Shortforms) 2

(a) 最初の3マスを残して、後ろを省略する場合

⠠⠠⠠ — across    ⠠⠠⠠ — almost  
⠠⠠⠠ — already    ⠠⠠⠠ — always  
⠠⠠⠠ — altogether    ⠠⠠⠠ — although  
⠠⠠⠠ — immediate    ⠠⠠⠠ — necessary  
⠠⠠⠠ — neither    ⠠⠠⠠ — perhaps

(b) …self, …selves が付く語の一部を省略する場合

⠠⠠⠠ — myself    ⠠⠠⠠ — yourself  
⠠⠠⠠ — himself    ⠠⠠⠠ — herself  
⠠⠠⠠ — itself    ⠠⠠⠠ — oneself  
⠠⠠⠠ — thyself    ⠠⠠⠠ — ourselves  
⠠⠠⠠ — yourselves  
⠠⠠⠠ — themselves

(c) e を省いて現在分詞を作る語の一部を省略する場合

⠠⠠⠠ — conceive    ⠠⠠⠠ — conceiving  
⠠⠠⠠ — deceive    ⠠⠠⠠ — deceiving  
⠠⠠⠠ — declare    ⠠⠠⠠ — declaring

⠠⠠⠠⠠⠠ — perceive  
 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ — perceiving  
 ⠠⠠⠠ — receive      ⠠⠠⠠⠠⠠ — receiving  
 ⠠⠠⠠ — rejoice      ⠠⠠⠠⠠⠠ —rejoicing

(6) 下がり縮約語 (Lower wordsigns)

(a) 独立して用いるもの

⠠⠠⠠ — be      ⠠⠠⠠ — enough      ⠠⠠⠠ — were  
 ⠠⠠⠠ — his      ⠠⠠⠠ — in      ⠠⠠⠠ — was

(7) 下がり縮約部 (Lower groupsigns)

(a) 単語のはじめの部分にだけ用いるもの

⠠⠠⠠ — be      ⠠⠠⠠ — con      ⠠⠠⠠ — dis

(b) 単語の中の部分にだけ用いるもの

⠠⠠⠠⠠ — ea      ⠠⠠⠠⠠ — bb      ⠠⠠⠠⠠ — cc  
 ⠠⠠⠠⠠ — ff      ⠠⠠⠠⠠ — gg

1 6. 英語の点字縮約アルファベット順一覧表

1 マスや2 マス, 又は下がり記号の縮約語と縮約部及び省略形のすべてをアルファベット順に整理すると次のとおりである。

about	=	⠠⠠⠠⠠⠠
above	=	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
according	=	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
across	=	⠠⠠⠠⠠⠠
after	=	⠠⠠⠠
afternoon	=	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
afterward	=	⠠⠠⠠⠠⠠
again	=	⠠⠠⠠
against	=	⠠⠠⠠⠠⠠
almost	=	⠠⠠⠠⠠⠠
already	=	⠠⠠⠠⠠⠠
also	=	⠠⠠⠠
although	=	⠠⠠⠠⠠⠠
altogether	=	⠠⠠⠠⠠⠠⠠
always	=	⠠⠠⠠⠠⠠
ance	=	⠠⠠⠠
and	=	⠠⠠
ar	=	⠠⠠
as	=	⠠⠠
bb	=	⠠⠠⠠⠠
be	=	⠠⠠⠠
because	=	⠠⠠⠠
before	=	⠠⠠⠠
behind	=	⠠⠠⠠
below	=	⠠⠠⠠
beneath	=	⠠⠠⠠
beside	=	⠠⠠⠠
between	=	⠠⠠⠠⠠
beyond	=	⠠⠠⠠
blind	=	⠠⠠⠠
braille	=	⠠⠠⠠⠠
but	=	⠠⠠

can = ⠠⠨⠠  
 cannot = ⠠⠨⠠⠠⠠⠠  
 cc = ⠠⠠⠠⠠  
 ch = ⠠⠨⠠  
 character = ⠠⠨⠠⠠⠠⠠  
 child = ⠠⠨⠠  
 children = ⠠⠨⠠⠠⠠  
 con = ⠠⠠⠠  
 conceive = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 conceiving = ⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
 could = ⠠⠠⠠  
 day = ⠠⠠⠠  
 deceive = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 deceiving = ⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
 declare = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 declaring = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 dis = ⠠⠠⠠  
 do = ⠠  
 ea = ⠠⠠⠠⠠  
 ed = ⠠  
 either = ⠠⠠⠠  
 en = ⠠⠠⠠  
 ence = ⠠⠠⠠  
 enough = ⠠⠠⠠  
 er = ⠠  
 ever = ⠠⠠⠠  
 every = ⠠  
 father = ⠠⠠⠠  
 ff = ⠠⠠⠠⠠  
 first = ⠠⠠⠠  
 for = ⠠  
 friend = ⠠⠠⠠  
 from = ⠠  
 ful = ⠠⠠⠠  
 gg = ⠠⠠⠠⠠  
 gh = ⠠

go = ⠠⠮⠠⠮  
 good = ⠠⠮⠠⠮⠠⠮  
 great = ⠠⠮⠠⠮⠠⠮⠠⠮  
 had = ⠠⠮⠠⠮  
 have = ⠠⠮  
 here = ⠠⠮⠠⠮  
 herself = ⠠⠮⠠⠮⠠⠮  
 him = ⠠⠮⠠⠮  
 himself = ⠠⠮⠠⠮⠠⠮  
 his = ⠠⠮⠠⠮  
 immediate = ⠠⠮⠠⠮⠠⠮  
 in = ⠠⠮⠠⠮  
 ing = ⠠⠮  
 it = ⠠⠮  
 its = ⠠⠮⠠⠮  
 itself = ⠠⠮⠠⠮  
 ity = ⠠⠮⠠⠮  
 just = ⠠⠮  
 know = ⠠⠮⠠⠮  
 knowledge = ⠠⠮  
 less = ⠠⠮⠠⠮  
 letter = ⠠⠮⠠⠮  
 like = ⠠⠮  
 little = ⠠⠮⠠⠮  
 lord = ⠠⠮⠠⠮  
 many = ⠠⠮⠠⠮  
 ment = ⠠⠮⠠⠮  
 more = ⠠⠮  
 mother = ⠠⠮⠠⠮  
 much = ⠠⠮⠠⠮  
 must = ⠠⠮⠠⠮  
 myself = ⠠⠮⠠⠮⠠⠮  
 name = ⠠⠮⠠⠮  
 necessary = ⠠⠮⠠⠮⠠⠮  
 neither = ⠠⠮⠠⠮⠠⠮  
 ness = ⠠⠮⠠⠮

not = ⠠⠋⠠⠗⠠⠗  
 of = ⠠⠋⠠⠋⠠⠋  
 one = ⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
 oneself = ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
 ong = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 ou = ⠠⠠⠠  
 ought = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 ound = ⠠⠠⠠⠠  
 ourselves = ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
 ount = ⠠⠠⠠⠠  
 out = ⠠⠠⠠  
 ow = ⠠⠠⠠  
 paid = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 part = ⠠⠠⠠⠠  
 people = ⠠⠠⠠  
 perceive = ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
 perceiving = ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
 perhaps = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 question = ⠠⠠⠠⠠  
 quick = ⠠⠠⠠⠠  
 quite = ⠠⠠⠠  
 rather = ⠠⠠⠠  
 receive = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 receiving = ⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
 rejoice = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 rejoicing = ⠠⠠⠠⠠⠠⠠  
 right = ⠠⠠⠠⠠  
 said = ⠠⠠⠠⠠  
 sh = ⠠⠠⠠  
 shall = ⠠⠠⠠  
 should = ⠠⠠⠠⠠  
 sion = ⠠⠠⠠⠠  
 so = ⠠⠠⠠  
 some = ⠠⠠⠠⠠  
 spirit = ⠠⠠⠠⠠  
 st = ⠠⠠⠠

still = ⠠⠠⠠  
 such = ⠠⠠⠠⠠  
 th = ⠠⠠  
 that = ⠠⠠  
 the = ⠠⠠  
 their = ⠠⠠⠠  
 themselves = ⠠⠠⠠⠠⠠  
 there = ⠠⠠⠠  
 these = ⠠⠠⠠  
 this = ⠠⠠  
 those = ⠠⠠⠠  
 through = ⠠⠠⠠  
 thyself = ⠠⠠⠠⠠  
 time = ⠠⠠⠠  
 tion = ⠠⠠⠠  
 today = ⠠⠠⠠  
 together = ⠠⠠⠠⠠  
 tomorrow = ⠠⠠⠠  
 tonight = ⠠⠠⠠  
 under = ⠠⠠⠠  
 upon = ⠠⠠⠠  
 us = ⠠⠠  
 very = ⠠⠠  
 was = ⠠⠠⠠  
 were = ⠠⠠⠠  
 wh = ⠠⠠  
 where = ⠠⠠⠠  
 which = ⠠⠠  
 whose = ⠠⠠⠠  
 will = ⠠⠠  
 with = ⠠⠠  
 word = ⠠⠠⠠  
 work = ⠠⠠⠠  
 world = ⠠⠠⠠  
 would = ⠠⠠⠠  
 you = ⠠⠠

young = ☰☷

your = ☷☷

yourself = ☷☷☷☷

yourselves = ☷☷☷☷☷☷

## 17. 英語の点字縮約字形別一覧表

英語の点字縮約のすべてを字の形を見出しとしてまとめると次の一覧表のとおりである。字の形の配列順序は、「点字の配列表」の順序に従った。

他の綴り字がある場所を示す場合には□□を用いている。

字の形の見出し語は、原則として同じ形のものは一つとし、その字形が表す綴り字については、縮約語を前に、縮約部を後ろに示している。

⠠⠠⠠	=	about
⠠⠠⠠⠠	=	above
⠠⠠⠠	=	according
⠠⠠⠠⠠	=	across
⠠⠠⠠	=	after
⠠⠠⠠⠠	=	afternoon
⠠⠠⠠⠠	=	afterward
⠠⠠⠠	=	again
⠠⠠⠠⠠	=	against
⠠⠠⠠	=	also
⠠⠠⠠⠠	=	almost
⠠⠠⠠⠠	=	already
⠠⠠⠠⠠	=	altogether
⠠⠠⠠⠠	=	although
⠠⠠⠠⠠	=	always
⠠	=	but
⠠⠠⠠	=	blind
⠠⠠⠠⠠	=	braille
⠠	=	can
⠠⠠⠠	=	could
⠠	=	do
⠠⠠⠠⠠	=	declare
⠠⠠⠠⠠⠠	=	declaring
⠠⠠⠠⠠	=	deceive
⠠⠠⠠⠠⠠	=	deceiving
⠠	=	every
⠠⠠⠠	=	either
⠠	=	from
⠠⠠⠠	=	friend

一 一 一 一 = first  
 一 一 一 = go  
 一 一 一 一 = good  
 一 一 一 一 一 一 = great  
 一 一 一 = have  
 一 一 一 一 = him  
 一 一 一 一 一 一 = himself  
 一 一 一 一 一 一 = herself  
 一 一 一 一 一 一 = immediate  
 一 一 一 = just  
 一 一 一 一 = knowledge  
 一 一 一 = like  
 一 一 一 一 = little  
 一 一 一 一 = letter  
 一 一 一 = more  
 一 一 一 一 一 一 = myself  
 一 一 一 一 = much  
 一 一 一 一 = must  
 一 一 一 = not  
 一 一 一 一 一 一 = necessary  
 一 一 一 一 一 一 = neither  
 一 一 一 = people  
 一 一 一 一 = paid  
 一 一 一 一 一 一 一 一 = perceive  
 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 = perceiving  
 一 一 一 一 一 一 = perhaps  
 一 一 一 = quite  
 一 一 一 一 = quick  
 一 一 一 = rather  
 一 一 一 一 一 一 = receive  
 一 一 一 一 一 一 一 一 = receiving  
 一 一 一 一 一 一 = rejoice  
 一 一 一 一 一 一 一 一 = rejoicing  
 一 一 一 = so  
 一 一 一 一 = said  
 一 一 一 一 = such

⠠⠠ = that  
 ⠠⠠⠠ = today  
 ⠠⠠⠠⠠ = together  
 ⠠⠠⠠⠠ = tomorrow  
 ⠠⠠⠠ = tonight  
 ⠠⠠ = us  
 ⠠⠠ = very  
 ⠠⠠ = it  
 ⠠⠠⠠ = itself  
 ⠠⠠⠠ = its  
 ⠠⠠ = you  
 ⠠⠠⠠ = your  
 ⠠⠠⠠⠠ = yourself  
 ⠠⠠⠠⠠⠠ = yourselves  
 ⠠⠠ = as  
 ⠠⠠ = and  
 ⠠⠠ = for  
 ⠠⠠ = of  
 ⠠⠠ = the  
 ⠠⠠⠠⠠⠠ = themselves  
 ⠠⠠ = with  
 ⠠⠠ = child ; ch  
 ⠠⠠⠠ = children  
 ⠠⠠ = gh  
 ⠠⠠ = shall ; sh  
 ⠠⠠⠠ = should  
 ⠠⠠ = this ; th  
 ⠠⠠⠠⠠ = thyself  
 ⠠⠠ = which ; wh  
 ⠠⠠ = ed  
 ⠠⠠ = er  
 ⠠⠠ = out ; ou  
 ⠠⠠⠠⠠⠠ = ourselves  
 ⠠⠠ = ow  
 ⠠⠠ = will  
 ⠠⠠⠠ = would

□□□ = ea□□  
 □□□ = be ; be□□ ; □□bb□□  
 □□□ = because  
 □□□ = before  
 □□□ = behind  
 □□□ = below  
 □□□ = beneath  
 □□□ = beside  
 □□□ = between  
 □□□ = beyond  
 □□□ = con□□ ; □□cc□□  
 □□□ = conceive  
 □□□□ = conceiving  
 □□□ = dis□□  
 □□□ = enough ; en  
 □□□ = □□ff□□  
 □□□ = were ; □□gg□□  
 □□□ = his  
 □□□ = in  
 □□□ = was  
 □□ = still ; st  
 □□ = □□ing  
 □□ = ar  
 □□□ = upon  
 □□□ = these  
 □□□ = those  
 □□□ = whose  
 □□□ = word  
 □□□ = cannot  
 □□□ = had  
 □□□ = many  
 □□□ = spirit  
 □□□ = their  
 □□□ = world  
 □□□ = day  
 □□□ = ever

⠠⠋⠠⠑ = father  
 ⠠⠋⠠⠑ = here  
 ⠠⠋⠠⠑ = know  
 ⠠⠋⠠⠑ = lord  
 ⠠⠋⠠⠑ = mother  
 ⠠⠋⠠⠑ = name  
 ⠠⠋⠠⠑ = one  
 ⠠⠋⠠⠑⠠⠑ = oneself  
 ⠠⠋⠠⠑ = part  
 ⠠⠋⠠⠑ = question  
 ⠠⠋⠠⠑ = right  
 ⠠⠋⠠⠑ = some  
 ⠠⠋⠠⠑ = time  
 ⠠⠋⠠⠑ = under  
 ⠠⠋⠠⠑ = young  
 ⠠⠋⠠⠑ = there  
 ⠠⠋⠠⠑ = character  
 ⠠⠋⠠⠑ = through  
 ⠠⠋⠠⠑ = where  
 ⠠⠋⠠⠑ = ought  
 ⠠⠋⠠⠑ = work  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□ound  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□ance  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□sion  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□less  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□ount  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□ence  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□ong  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□ful  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□tion  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□ness  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□ment  
 ⠠⠋⠠⠑ = □□ity